

# 富山地方鉄道吹奏楽団の半世紀

〈感謝を込めて〉

富山地方鉄道吹奏楽団団長

村井 義治

はじめに

富山地方鉄道吹奏楽団は、その名の通り富山地方鉄道株式会社の社員サークルとして昭和三十四年（一九五九年）一月一日に社員有志によって創立され、平成二十一年に五十周年を迎えたところである。

職場の吹奏楽団の紹介ということで、まず、簡単に会社の紹介をさせていただく。当社は、富山県富山市に本社を置き、地元では「ちてつ」の愛称で県民の皆様に長らく親しまれ、平成二十二年二月には創立八十周年を迎えた。主な事業内容としては、富山県東部を中心に、鉄道線、軌道線、路線バス、高速バス

等を運営する陸上運輸事業のほか、不動産やレジャー等の付帯事業を行っている。また、県西部のバス事業を営む加越能鉄道株式会社や立山黒部アルペンルートの中心的運営を担っている立山黒部貫光株式会社などをはじめとする、さまざまなグループ会社で成り立っている。

一方、当吹奏楽団は、前述の通り会社の社員サークルとして生まれ、会社と共に歩みながら、現在は約二十五名の団員で活動しており、富山県内においては、職場の吹奏楽団として最古参であるばかりでなく、社会人で編成する吹奏楽団としても長い歴史を持っている。日頃の活動としては会社の吹奏楽団として様々な社内行事に出演する傍ら、年一回の

定期演奏会を開催するほか社外での演奏活動など多岐にわたっている。

当団の特徴として、上は六十代から下は二十代前半の新人社員まで幅広い年齢層で、アウトホームな雰囲気を持ち味としており、吹奏楽を通して富山県の文化向上の一翼を担うことを目的としている。

## 歴史

当団が創立された昭和三〇年代半ばは、現存する職場や社会人の吹奏楽団が全国的に産声を上げた時期と重なっており、当社に限らず、社会人の娯楽の一つとして音楽が脚光を浴び出した時期でもある。



▲「第1回クリスマスコンサート」  
昭和35年12月24日 高山市昭和会館大ホールにて

先輩から聞いたところでは、当社でも社員有志によりハーモニカバンドが結成されていたが、技能が向上するにつれ、次第に物足りなくなり、いわゆるプラスチック用の楽器を購入しようということになったそうである。また、創立が一月一日であるのにも理由があり、バンド仲間が初詣に行った帰りに、勢いをつけて繁華街の中にあつた楽器店の店主を叩き起こして、トランペットやらトロンボーンを購入したとのことである。買った方も買った方であるが、売っていただいた楽器店に

も随分理解があつたと思われる。

ともあれ、これを契機に本格的に吹奏楽への取り組みを始める訳であるが、何より経験者が皆無のため、当時県内でも有数の実力を誇っていた富山商業高校に指導を乞い、また、一緒に練習に励んだそうである。その縁で、長らく同校吹奏楽部の顧問を務めて来られた坪島照信先生には退官後もお指導いただいたほか、同校OBの山本武先生（現・富山県社会人吹奏楽連盟副理事長、県立富山いずみ高校吹奏楽部講師）には現在も色々な形でご指導いただいているところである。

何はともあれ、楽器も揃い、それなりに演奏できるようなになれば、次はコンサートへとつき進んでいくことになる。昭和三十五年（一九六〇年）から三十八年（一九六三年）にかけて年末に「クリスマス・コンサート」と銘打ち、富山市内で四回の演奏会を開催した。

しかしながら、時を同じくしてモータリゼーションの波が地方を襲ってくる。昭和四〇年頃より鉄道・バスの輸送人員は大幅に減少し、新入社員の採用がストップするなど厳しい時代が続き、演奏会の継続も困難になつたのである。

とはいえ、着実に活動を続けた結果、昭和五〇年代後半からは活動も活発化し、昭和五十八年度（一九八三年度）にはトロンボーン

四重奏で高松市での全日本アンサンブルコンテストに出場したほか、昭和六〇年（一九八五年）には念願の定期演奏会も復活し、現在に至っている。

また、この間、全日本吹奏楽コンクールにも積極的に出場し、富山県大会、北陸大会への出場はもとより、平成二年（一九九〇年）の北海道大会と翌年の広島大会にそれぞれ北陸地区代表として出場し、他県の強豪バンドと同じステージに立つたことは我々の良い思い出である。

### 現在の主な活動

会社の吹奏楽団として、新年祝賀式、入社式や創立記念式典などの定例行事での社歌吹奏に加え、電車やバスの発車式ではファンファーレや記念演奏なども披露しているほか、毎年の活動の集大成として毎年秋に定期演奏会を開催しており、平成二十一年（二〇〇九年）には楽団創立五〇周年を記念した第二十五回定期演奏会を開催し、本年十一月には第二十七回の演奏会を開催する予定である。

定期演奏会には、これまで先述の坪島照信、山本武の両先生のほか、元JBA（日本吹奏楽指導者協会）会長の春日学（物故）、遠山詠一両先生にも客演のタクトを振って頂いて

いる。

吹奏楽には無限の可能性があるとの考えから、クラシック、吹奏楽オリジナル、ポピュラー曲、歌謡曲など幅広い選曲を心がけており、年配の方々を中心とした根強いファンの方々に支えられている。また、当団では職場の吹奏楽団であることから、数年前より当社の電車・バスの定期券をお持ちのお客様に無料で入場いただくことで、利用者へのサービス還元と吹奏楽ファンの裾野の拡大に一役買っている。

普段の練習は、常任指揮者の赤江弘（初代団長・当社OB）並びに林富士男（富山ライトレール運転士）を中心に、通常は週に一〜



▲「第26回定期演奏会」  
平成22年10月25日 富山県民会館大ホール

二回、演奏会や行事直前には回数を増やし、本社ビルのホールで行っている。

団員は電車の運転士を中心に、事務職、技術職などバラエティに富んでおり、女性の団員も多い。ただ、運輸事業の特色として、団員の勤務時間がまちまちのため、全員揃っての練習がなかなか行えないのが一番の悩みの種でもある。

また、当団が加盟する富山県社会人吹奏楽連盟での活動を中心に、交通関係行事や沿線地域での招待・依頼演奏活動等、社外での活動も広く行っている。同連盟は昭和六十三年（一九八八年）三月に当楽団を含む県内の社会人で構成される吹奏楽団が集結して結成され、平成二十三年三月末の加盟団体は十一団体、所属団員数は約四百五十名であり、当団の赤江弘が理事長を務めている。

毎年三月には加盟団体が一堂に会し、「富山県社会人吹奏楽フェスティバル」を開催しているほか、年に数回の合同行事を開催している。

各団体は、それぞれの成り立ちが違い、地域に根ざした楽団や、女性だけの楽団などバラエティに富んでいるなかで、当団は唯一の職場吹奏楽団である。それぞれの特色を生かしながらも技術的に互いに切磋琢磨し、フェスティバルでは総勢三百人の合同演奏を行う

など親睦を深めている。

## おわりに

今回、当楽団の半世紀の歴史を振り返り、改めて様々な方々に支えられてきたことを再認識させていただいた。本文中に氏名を紹介できなかった方々もたくさんいる。また、職場の吹奏楽団として、会長、社長をはじめ上司、同僚の理解がなくては活動の継続は不可能である。これまでお世話になった皆様へ深く感謝の意を表し、結びとさせていただきます。



▲「第25回定期演奏会打ち上げにて」  
平成21年9月25日 吹奏楽団OBとともに記念撮影  
後列左から2人目が筆者、6人目が赤江弘常任指揮